

## 血縁、地縁、職縁に続くもの

### 『情報楽市』

最近インターネットの自由な空気を、楽市楽座に例えて言う人が多い。経済企画庁長官である堺屋氏もその1人だ。本書では、情報楽市という造語で言い表し、このキーワードを中心にネットワークの動向を5人の著者が探っている。

初めにインターネットのもたらす新しいコミュニティの形を「好縁社会」と呼んで、血縁、地縁、職縁に続く共同体を形成するだろうと言っている。たしかにインターネットのいたる所で、血

縁や地域、職場の縁とかけ離れた仲間意識が生まれている。同じ趣味や思考などにもついたコミュニティが社会的な基盤になっていくということだろうか。インターネットのポジティブな特性を前面に押し出した社会を予測している。

また長野県上田市のマルチメディア情報センターの井戸氏は、上田市をマルチメディアの集積地にしようとする通産省、長野県、上田市のプロジェクトを取り上げる。下記の「エレクトロニックビレッジ」のプロジェクトに通じるものがある。

上田市の例は、地縁社会の電脳村（実際には市だが）化であるが、地域に依存しない好縁社会が進みつつも、地縁社会も進化しているところが興味深い。



堺屋太一ほか著  
扶桑社  
207ページ  
本体1,800円＋税  
ISBN4-594-02644-3



# コミュニティとインターネット

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

## 地域社会を結ぶもの

### 『エレクトロニックビレッジ』

アンドリュー・M・コヒル、  
アンドレア・L・カバノー 著 /  
公文俊平、CANフォーラム 訳  
くまざさ社  
239ページ  
本体2,000円＋税  
ISBN4-938546-47-7



数年前、パソコンを村民に配布して話題になった村があった。最近インターネットに積極的に取り組む地方自治体も現れている。この本は80年代に生まれた電脳村（電子的なコミュニケーション手段を取り入れた自治体）を取り上げている。米国バージニア州ブラック

スバーク市は、地元のバージニア工科大学とバージニア・ベル・アトランティック社の官民協同で、このプロジェクトを進めていった。インフラの整備、行政内部のネットワーク化、教育現場への導入、ビジネスへの展開など、数々の問題をクリアしていった経過を、著者であるプロジェクトのディレクターが書き記している。

このようなプロジェクトでは、ネットワークインフラやパソコンの台数といったハードウェアを充実させることに偏りがちだが、情報、ボランティア、コミュニティといった人間的な項目が成功を導く鍵を秘めていることが分かる。地域に根ざした情報社会の構築を目指す人には参考になるところがあるだろう。80年代の話なので、解説にある技術が古いものだと意識して読む必要がある。

## ナレッジマネジメントと言う前に

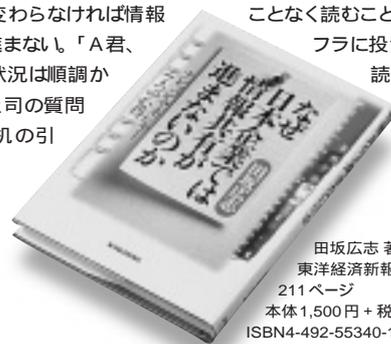
### 『なぜ日本企業では情報共有が進まないのか』

電脳村の構築には、インフラだけでなく、コンテンツを制作するコミュニティの形成が重要であることが分かったが、企業内の情報の電子化やネットワーク化でも、同じことが言えるらしい。日本では最新のネットワーク設備、業務アプリケーションや高速なサーバーを導入しても、情報化は遅々として進まないようである。問題はインフラ、ハードウェア、コンピュータソフトウェアにあるわけではないらしい。

状況はそろったとしても、利用者の意識が変わらなければ情報の電子化は進まない。「A君、今期の受注状況は順調かね」という上司の質問に、自分の機の引

出しから個人管理のファイルをコソッと取り出して答えるという風景がよく見られる。この時点で情報は共有されていない。各社員がバラバラに持つ情報が多いと、社員の配置転換や退職で最悪の場合は情報を喪失してしまう。

本書では情報共有化のキーポイントを中間管理職に見つけている。時間と場所を管理する従来型マネージャーから、情報を管理するナレッジマネージャーへの転換を提案し、ナレッジマネージャーの心得7つを章立てで解説している。マネジメントスタイルの改革がテーマであるので、インフラなどに依存することなく読むことができる。インフラに投資する前にまず読んでみるといいかもしれない。



田坂広志 著  
東洋経済新報社  
211ページ  
本体1,500円＋税  
ISBN4-492-55340-1

## インターネットがさらにおもしろくなる

### 『インターネットのおもしろ雑学』

インターネットでのテロ活動を行なう謎の組織「プレトリアン」、彼らの示すシンボル（パイ記号）。この記号をクリックすると、あなたの目の前に驚異の機密情報が現れるはずだ。

プレトリアンや は、某米国映画の設定なのだが、実際にこのマークを隠しもつホームページがいくつもある。その上「マーク普及協議会」なるものを結成しているようだ。

この映画を観たことがなければなんのこともや分からないのだが、こんなマニアックな仕組みを施すページが結構あるのには驚いた。こんなインター

ネットに散らばる面白い情報を集めたのが本書。役に立たない情報満載のインターネット関連雑学の集大成である。クイズ番組にも出そうにない知識が溢れている。

「ハイハイそんなものもある！」という情報から、眉つば情報、驚きの情報まで、インターネットを使っている人はフンフンとうなずきながら暇つぶしに読んでしまうことだろう。たとえば英国女王が70年代に電子メールを発信してたらしいとか、ネットスケープナビゲーターのダウンロード第1号は日本人であったという情報には驚きを感じる。読み終わってみると、改めてインターネットが玉石混交であることが分かるだろう。



堤大介 著  
光文社  
280ページ  
本体495円＋税  
ISBN4-334-72790-5



大津真 著  
日経BP社  
431ページ  
本体3,800円＋税  
ISBN4-8222-9102-2

### クライアントベースのLinux入門書

#### 『Red Hat Linux によるUNIX入門』

日本語Red Hat Linux 5.2ベースのUNIXユーザーの入門書。インストールしたあとで必要になるコマンドリファレンスマニュアルになっている。Linuxを使うには、MS-DOSのようなコマンド入力が必要となるが、そこで途方に暮れる人が大勢いる。

本書は、代表的な基本コマンドを丁寧に解説している。たとえば、シェルとしてbashを、エディターではvi系としてVIMを、emacs系としてXEmacsを解説している。GUIのX Windowsのデスクトップ環境も標準のLaserDesk(日本語

化されたWindowMaker)、KDE、GNOMEが解説されている。ネットワーク環境としては、定番のSamba、Netatalkに加え、BIND、NFSも解説されている。Ghostscriptを使っているPostScript対応のプリント環境を構築するというような内容もうれしい。

なお本書ではメールサーバーやWWWサーバーの設定などは載っていないし、クライアント向けに割り切った内容になっている。

また付録のCD-ROMには、日本語Red Hat Linux 5.2のバイナリーが収録されている。まだ、バージョン5.2を入手していないLinuxユーザーは、本書を購入してみるものいいかも。

## お手軽! 電子メール

### 『できるポケットボードピュア』

最近ではコンビニでポケットボードを販売している。それも、最新機種種のポケットボードピュアである。ポケットボードはドコモが販売する携帯電話専用の携帯型電子メール機だ。今や若者の通信手段は、ポケベル 携帯電話 / PHS 携帯電話 & 電子メールへと移り変わっている。その日本の大衆電子メール文化の最先端にあるのが、コンビニで販売開始さ

れたポケットボードピュアと言ってもいい。この機器を3時間でもいこなすことを可能にする本が本書である。

電池の入れ方、携帯電話とのつなぎ方から、10円メール(ポケットボード用インターネットメールサービス)の登録方法、携帯電話のショートメールサービスを使った着信確認方法といった応用テクニックまでを、33のレッスンにまとめて紹介している。これなら、週末にポケットボードピュアを手に入れて、月曜までには一

通り使えるようになる。ポケットボードのアドレス帳に自分のアドレスを登録して、この本とともに彼女にプレゼントしてみるのはいかがだろうか。本書を読めば、30分で楽にアドレス登録ができるはずだ。もしかすると、あなた自身が200gを下回る軽量小型の電子メールマシンの魅力にはまってしまいうかもれない。



ポケットボーダーズ  
& インプレス書籍編集部 編  
インプレス  
110ページ  
本体790円＋税  
ISBN4-8443-1258-8



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)